

科目名 家庭基礎

単元名 B 衣食住の生活の自立と設計

内容のまとめ (2)衣生活と健康

1 単元の目標

- (1) ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身につける。
- (2) 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫する。
- (3) サステナブルな視点から衣生活を見つめ、問題点を自分のこととして捉え、課題解決に向けて自分や社会にできることを具体的に考え、行動に移すことができる。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ライフステージや目的に応じた被服の機能と装着について理解しているとともに、健康で快適な衣生活、人や環境に配慮した衣生活に必要な情報の収集・整理に必要な知識を身に付けている。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・衣生活の抱える問題点を理解している。	サステナブルな視点から、衣生活の問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、サステナブルな視点から衣生活を見つめ、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

3 指導と評価の計画(11時間)

- | | |
|--------------|-----|
| ・人と衣服のかかわり | 1時間 |
| ・衣服の素材の種類と特徴 | 2時間 |
| ・衣服の選択から管理まで | 3時間 |
| ・持続可能な衣生活を作る | 3時間 |
| ・衣服の構造、デザイン | 2時間 |

時間	【ねらい】・学習活動	重点	記録	備考（・は評価規準（□）は評価方法）
	単元を貫く課題 サステナブルな視点から衣生活を見つめ、自分と社会の持つ課題に目を向け、その課題を自分のこととして捉え、その解決策を具体的に考え実行に移してみよう。			
1	人と衣服のかかわり 【ねらい】衣服が持つ機能や安全性についての知識を身に付け、快適な衣生活を送るための要因について理解を深めさせる。			
	- 人と衣服の関わり、衣服の機能を知り、TPO やユニバーサルデザインを意識した衣服選択ができる。 - SHEIN の下着や水着から発ガン性物質が検出された話題等から、安全な衣生活について考える。	知 ① 思 ① ②	(★)	【知】①衣服の機能を理解している。(定期考査) 【思】①TPO を考えた衣服の選択ができる。(定期考査) 【思】②どのような衣服が快適で安全かを理解し、自分の生活と照らしあわせ、実践できる。□課題提出 ワークシート
2	衣服の選択から管理まで① 【ねらい】衣服の取り扱い表示から衣服の情報を読み取ることを通じ、衣服と世界との繋がりに目を向けさせる。			
	- 取り扱い表示に衣服のどのような情報が示されているのかを読み取り、世界地図に原産国と生産国をそれぞれシールで貼り、衣服と世界の繋がりについて目を向ける。 - 衣生活が地球温暖化や環境に与える影響が大きい現状を知り、衣生活を学ぶ目標を知る。	知 ② 思 ③	(★) ○	【知】②取り扱い表示にどのような情報が示されているのかを読み取ることができる。(定期考査) 【思】③衣服は世界と繋がっており、環境負荷が大きいことを理解している。□ワークシート
3 4	衣服の素材の種類と特徴 【ねらい】被服素材(繊維)の種類と特徴、性能について理解し、用途に応じた素材の選択が必要であることに気づかせる。地元繊維会社の素晴らしい技術や SDGs に向けた取り組みを知り、地元の魅力に目を向けさせる。			
	- 実際の衣服の取り扱い表示を見ながら、どのような衣服にどのような繊維が使われているのかを比較し、衣服に使用されている素材とその特徴をグループで考える。 - 繊維の生産過程における環境負荷・健康被害・人権問題についても理解す	知 ③ 思 ④	(★) ○	【知】③繊維の種類とその特徴や性能について理解している。(定期考査) 【思】④繊維の生産過程における諸問題について理解し、問題点を考え課題を書き出すこ

	る。 ・環境に配慮した新しい繊維の可能性にいて知る。 ・地元企業の取り組みを知り、地域産業に目を向ける。	思 ⑤	○	とができる。□ワークシート(定期考査) ・【思】⑤地元企業の取り組みから地域に目を向けさせ、地域や日本にあるものをどのようにしたら大切に守っていけるのかを考え、自分の言葉でまとめることができる。 □ワークシート
5 6	衣服の選択から管理まで② 【ねらい】環境負荷を少なくするために、購入した衣服をできるだけ長く着用する視点から、適切な衣服の取り扱い方について理解し、手入れ・管理することができる。			
	・衣服の取り扱い表示を読み取り、その衣服にあった適切な手入れ・保管の方法を考える。 ・化学繊維とマイクロプラスチック、合成洗剤と環境の関係について知る。	知 ④ 思 ⑥	(★)	・【知】④取り扱い表示を読みとり、自分の衣服を手入れ、管理ができる。 □(定期考査)・課題 ・【思】⑥合成洗剤やマイクロプラスチックが環境に与えている影響を知り、自分の生活の中でどのような取り組みができるのかを具体的に考えている。□ワークシート
7	持続可能な衣生活をつくる 【ねらい】生産から処分までの過程の中で、サステナブルな視点を取り入れながら、望ましい衣服選択(衣服の一生)について考えることができる。			
	・文化祭のクラス T シャツ(500 円)の価格から、販売→縫製→染色→繊維とそれぞれの段階での価格を出し、衣服の価格設定について考えることを通じ、ファストファッションについて様々な方向から考える。	思 ⑦	○	・【思】⑦価格設定に与える要因を様々な角度から考え、価格に含まれている見えない情報を考え問題点を考えることができる。 □ワークシート
8	・リサイクルにまわされた衣服の行きつく先の現状を VTR で視聴し、衣服の最後について考える。 ・衣服の新しいリサイクル方法について知る。	思 ⑧	○	・【思】⑧処分された衣服が環境や人に与える影響について考え、処分する前にできることを具体的に考えることができる。 □ワークシート
9 本 時	・サステナブルな視点から、生活者として一枚の衣服の誕生から処分までの過程を見つめ、衣服とのよりよいかかわり方・選択の仕方を具体的に考える。	思 ⑨ 態 ①	○ ○	・【思】⑨サステナブルな視点を持ち、衣服とのよりよい関わり方・選択の仕方等、自分と社会にできることを具体的に考えることができる。□ワークシート ・【態】①グループで協働し、学習したことを振り返りながら衣生活を見つめ、課題の解決に向けて具体的な話し合いができて □行動観察

10	衣服の構造・デザイン 【ねらい】アップサイクルを通じて、もの作りの楽しさを体験し、更に基礎的な裁縫技術を身につける。			
	・廃材を活用した、防災ミサンガの製作 地元企業と連携	知 ⑤	○	・【知】⑤防災ミサンガを作製し、その活用方法を理解している。 取り組みの観察と作品の出来栄
11	・廃材を活用した、防災頭巾の製作 地域の防火クラブの方と連携	知 ⑥	○	・【知】⑥防災頭巾を作製し、基本的な裁縫技術を修得している。 取り組みの観察と作品の出来栄
課題	・サステナブルの視点を持ち自分の衣生活を振り返り、問題点を見つけ、解決に向けて工夫・行動する。	思 ⑩ 態 ②	○	・【思】⑩【態】②学習したことを踏まえて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践している。 □課題設定から課題解決に向けての取り組み過程
家庭クラブ	・小野小学校の5年生に向けて、廃材となるものを活用した、アップサイクルの出前授業を実施。 ・地域へ向けたアップサイクル講習会 ・アップサイクルを通じた地域交流	態 ③		・【態】③学習したことをもとに、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践している。

【参考文献】

- ・服 ファッション 開発教育アクティビティ集5 開発教育協会
- ・VTR ザ・トゥルー・コスト ファストファッション 真の代償

4 学習活動と評価方法（学習指導案）

科 目 名	家庭基礎		指導クラス	2年G組 40 名
単 元 名	衣生活をつくる		使用教科書	家庭基礎 気づく力 築く未来
本時の主題	持続可能な衣生活をつくる(9時間目/11時間)			
指 導 観	SDGsの取り組みの中で、本校は昨年度より地元企業と「もったいない」について考える活動をしている。中でも株式会社艶金様と一緒に廃材を活用したアップサイクルに力を入れている。地域や子どもたちにアップサイクルを広める活動は実践しているが、実際の衣生活が環境と大きく関わっていることを知っている生徒は34%であり、衣生活と環境の問題に対する意識を持った生徒の育成には至っていない現状があることが分かった。「価格」(76%)や「デザイン」(62%)を重視しがちで、生産過程や人や環境に配慮して衣服を購入している生徒は0%であった。衣服が環境に与える負荷は大きく、深刻な問題となっている。私たち一人一人が意識と行動を少し変えることで大きな一歩を踏み出すことができる。今世界で起きている現状を知り、企業だけでなく私たち生活者もサステナブルな視点を持ち、考え実践していく必要がある。「価格」や「デザイン」だけでなく、衣服の生産から廃棄に至るまでの過程に想いをめぐらせ、サステナブルな視点を持って衣服とのよりよい関わり方、選択する力等を身に付けさせたいと考える。			
本時の目標	サステナブルな視点を取り入れながら、よりよい衣服選択について考えてみよう。			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価規準と評価方法	指導上の留意点
導入 3分	問題点を振り返らせる。	・これまでの学習の中で書き溜めた「問題カード」を振り返る。	・カードを見ながら問題点を再確認している。	・自分がこれまで書き出した問題点を振り返らせる。
展開 40分	課題を紙に貼らせる。	1.衣服の生産過程のどこで問題点が発生しているのかを考え、紙に貼る。 <予想される生徒の反応> ・衣服の一生の全てで二酸化炭素の発生など環境と衣服が繋がっていることに気が付く。	評価規準【態】① グループで協働し、学習したことを振り返りながら衣生活を見つめ、課題の解決に向けて具体的な話し合いができて いる。 <評価方法> ・行動観察 ・グループでの学習用紙 ・ワークシート <Aの例> 衣服の課題を自分の事として捉え、具体的な解決策を提案している。	<Bを実現させるための指導> ・紙に貼ったものについて自分の考えを説明するよう促す。 <Cへの手だて> ・カードや付箋に書いたものを紙に貼っていくよう促す。
	問題点の解決策を考えさせる。	2.問題点の解決策を相談し付箋に書き、貼っていく。 <予想される生徒の反応> ・自分の課題と社会の課題は繋がっていることに気が付く。 ・自分にできることがたくさんあることに気が付く。		・問題カードが足りない場合は書き足すよう指示する。 ・できるだけたくさんの解決方法を考えるよう促す。 ・自分たちとは異なる視点や重なる視点に目を向けるよう促す。
	課題と解決策を交流させる。	3.他のグループと考えを交流し、様々な考え方にふれ、視点を広げる。 <予想される生徒の反応> ・自分たちとは異なる視点や重なる視点を見つける。		
	キーワードを考えさせる。	4.サステナブルな衣生活のために大切にしたいキーワードを考え、メンチメーターに3つまで入力する。 <予想される生徒の反応> ・環境 ・人権 ・大切に着る など		・メンチメーターに3つまでキーワードを入力させる。
まとめ 整理 7分	自分にできることを具体的に考えさせる。	・サステナブルな衣生活のために、自分にできることを具体的に考える。	評価規準【思】⑨ サステナブルな視点を持ち、衣服とのよりよい関わり方・選択の仕方等、自分にできることを具体的に考えることができる。 <評価方法> ・ワークシート <Aの例> サステナブルな視点を持ち、自分にできる課題の解決策を具体的に考えまとめることができる。	<Bを実現させるための指導> ・自分にできることを具体的に考えるよう促す。 <Cへの手だて> ・一時間を振り返り、自分にできそうなものを見つけさせる。

評価規準【態】

研究授業中は、盛りだくさんで、グループで話し合いが十分に持てなかったため、次の授業展開(会社の設立)と抱き合わせて評価を行った。

	学習活動における具体の評価規準 (B)	「十分満足できる」と判断される状況 (A)	「努力を要する」と判断される 状況(C)
評価	記入した課題や解決策を紙に貼っている。(0%)	衣服の課題を自分の事として捉え、具体的な解決策を提案している。(100%)	カードや付箋に書いたものを紙に貼ろうとしない。(0%)
生徒の状況		- 自分の提案した課題と解決方法をグループの中で提案できている。 - 会社設立に向けて、自分の意見を述べている。	
記述例		私が一番課題だと感じるのは「衣服が人や環境に与える影響の大きさです。それを改善するために、まずは衣服を購入する際に、本当に必要かどうかを考えて購入したいと思います。」	

・巡回での取り組みの様子 ・自己評価

評価規準【思】

	学習活動における具体の評価規準 (B)	「十分満足できる」と判断される状況 (A)	「努力を要する」と判断される 状況(C)
評価	自分にできる課題の解決策を考えている。(2%)	サステナブルな視点を持ち、自分にできる課題の解決策を具体的に考えまとめることができる。(98%)	解決策を書けない。(0%)
生徒の状況	解決策はかけているが、具体的ではない。	衣生活の授業で学んだ生産過程での課題に目を向け、自分にできる解決策をグループでの話し合いをもとに、具体的に記述できている。	
記述例	これまでは価格や手入れのしやすさ、合わせやすさ、肌ざわりをみて買うかどうかを決めていたけど、一週間以内に着なくなったということがないようにしたい。	- 環境への負荷を少なくするために、長く着ることができる衣服をよく考えて購入する。透明性が高く、適正な価格のものを選択するようにする。 - 衝動的に服を購入せず、広い視点で着続けられるかどうかを考え、どこでどのように作られた衣服かを知ろうとすること、長く着続けるために、その衣服にあった管理をしっかりとる。	

5 成果と課題

成果

- 毎時間のねらいをもって授業をすることで、たくさんの課題を発見できた。
- 現状を知り、理解することで、自分にできる具体的な行動を考えることができた。
- 単元を貫く課題に対して、生徒の意識の変容が見られた。衣服が環境に大きな影響を与えていること知っている生徒は、35%から95%へ変化した。衣服に対する捉え方も全員の生徒が変化しており、学びから多くのことを考えるようになっていた。
- 家庭クラブ活動が発端となり、衣生活の学びに繋がり、この学びが更に家庭クラブ活動を充実させ、商業の学びにも直結し、学びの広がりを実感した。
- メンチメーターを活用したことで、視覚的に生徒の変容が確認でき、大変有効であった。

課題

- 課題が多すぎて貼ることに集中し、グループで考えを深めることができなかった。課題カードをどのように活用するのが今後の課題である。使い方によって、様々な授業展開が期待できる。課題カードを効果的に活用する方法を工夫していきたい。